

株式会社 **MORESCO**

小さくとも世界にきらりと光を放つ企業を目指して

第6 1期決算説明

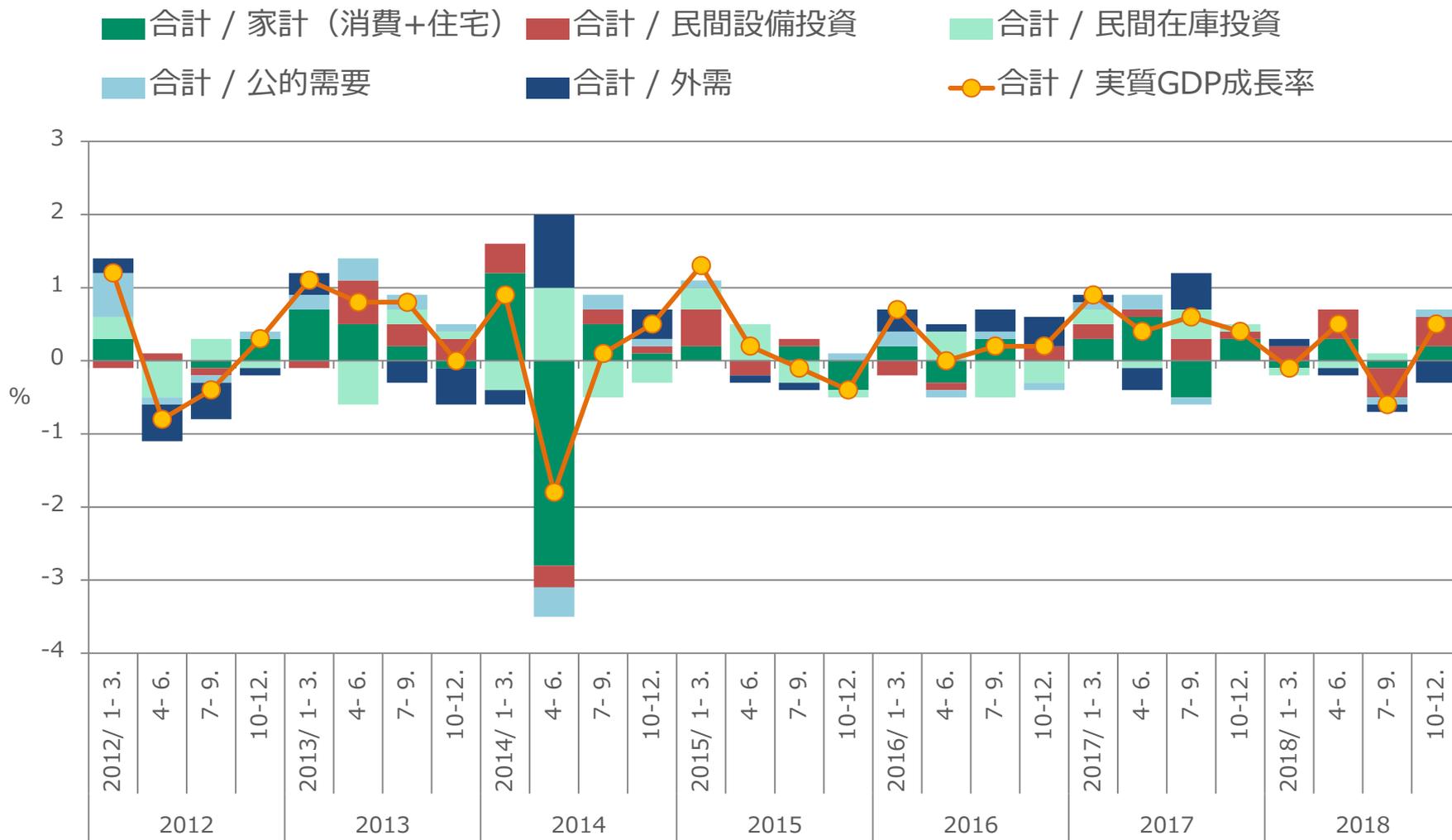
(2018年3月1日～2019年2月28日)

東証第一部5018 (石油・石炭製品)

2019/4/24

四半期別 実質GDP寄与度 推移

出展：内閣府



国内 月別 自動車生産台数

■ 2017.3-2018.2

■ 2018.3-2019.2

出典：自動車工業会
マークラインズ社

単位：千台

1,200

800

400

3月

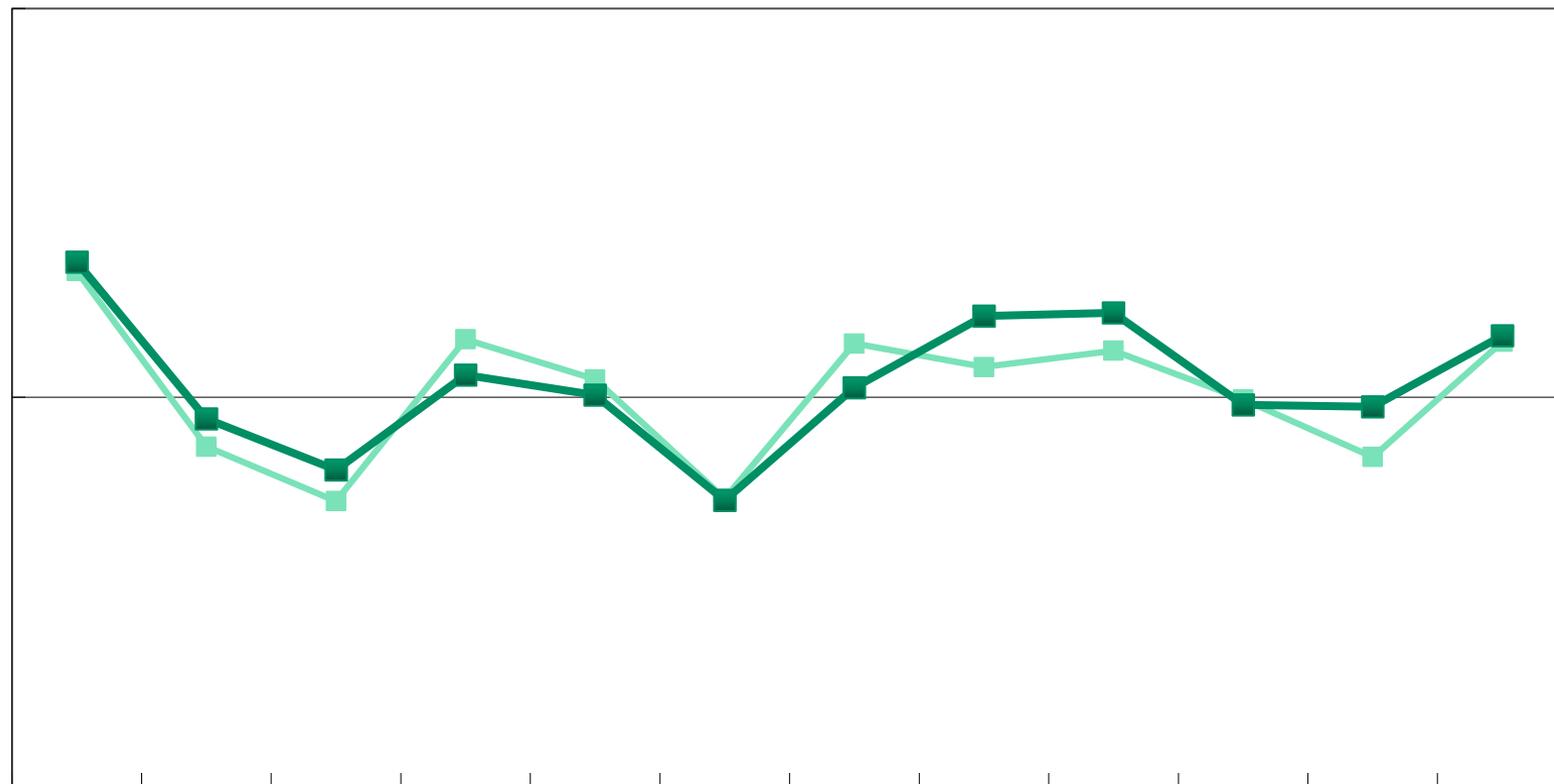
5月

7月

9月

11月

1月



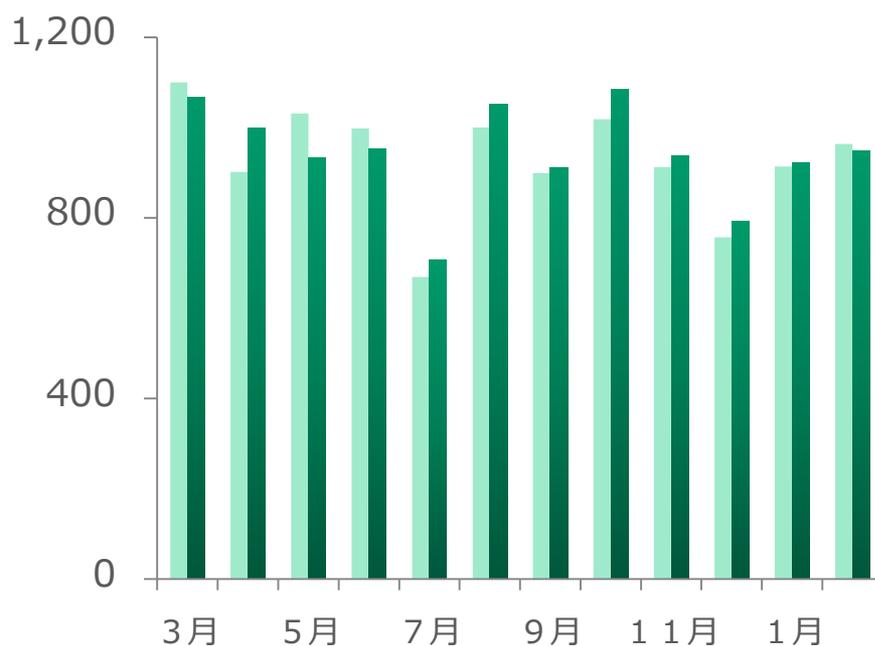
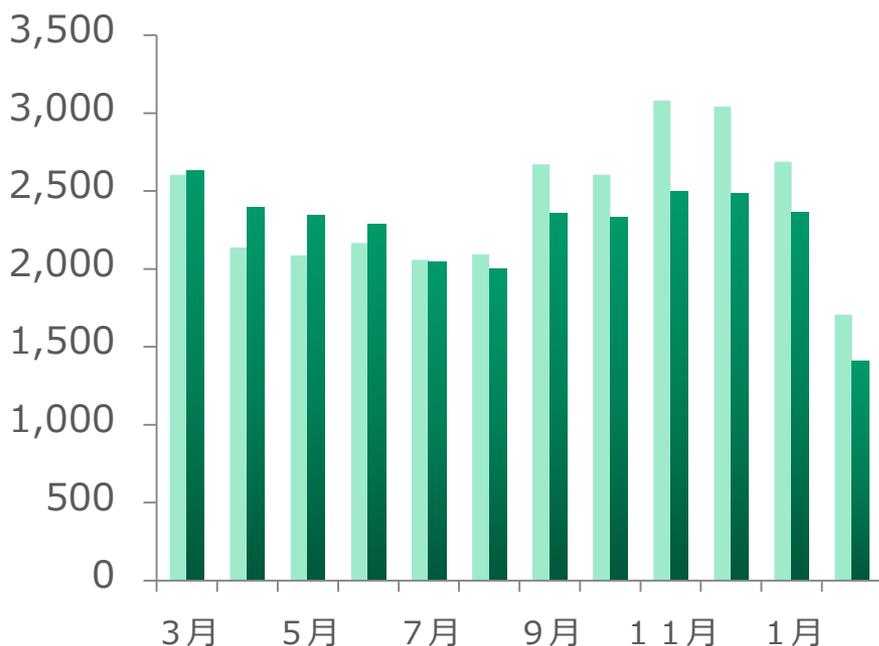
海外自動車生産台数の推移

■ 2017.3-2018.2
■ 2018.3-2019.2

単位：千台

中国

アメリカ



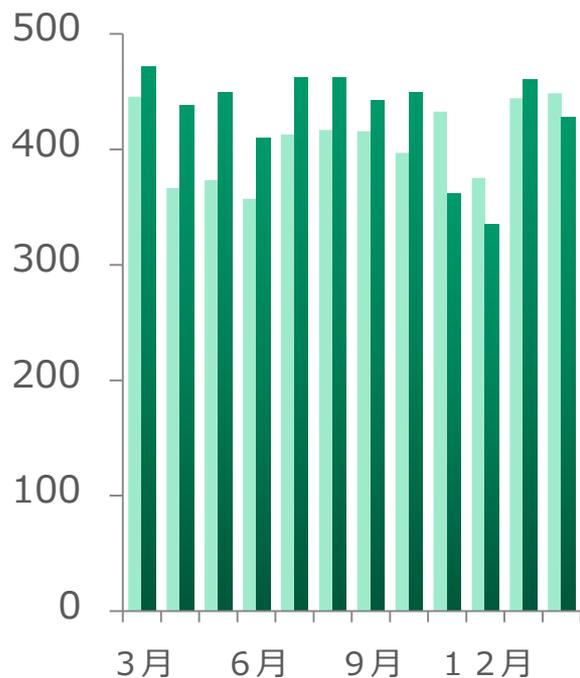
出典：マークライnz社

海外自動車生産台数の推移

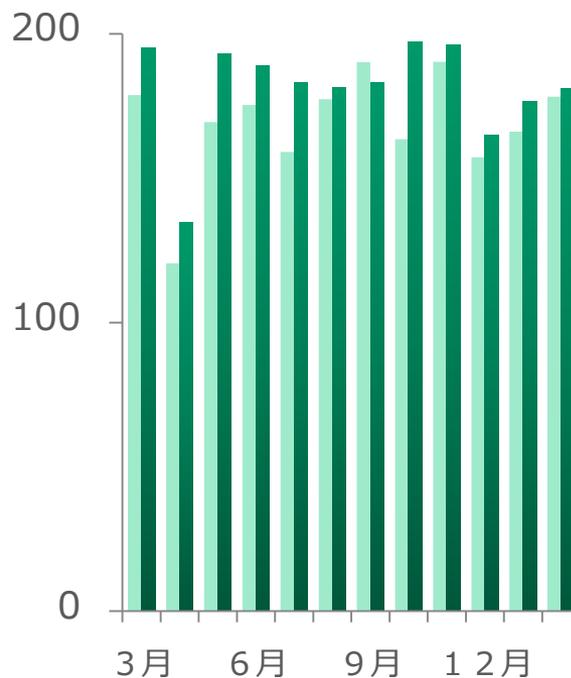
■ 2017.3-2018.2
■ 2018.3-2019.2

単位：千台

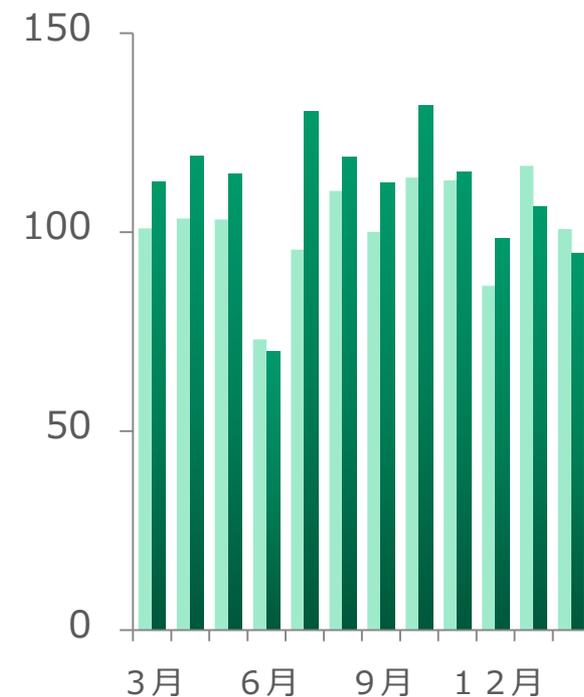
インド



タイ

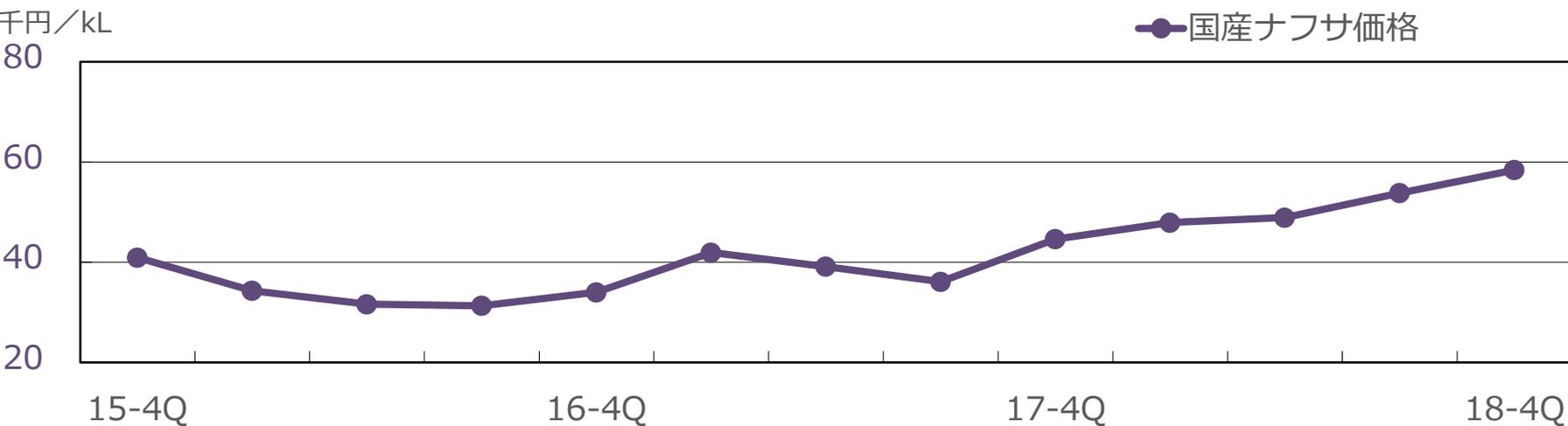
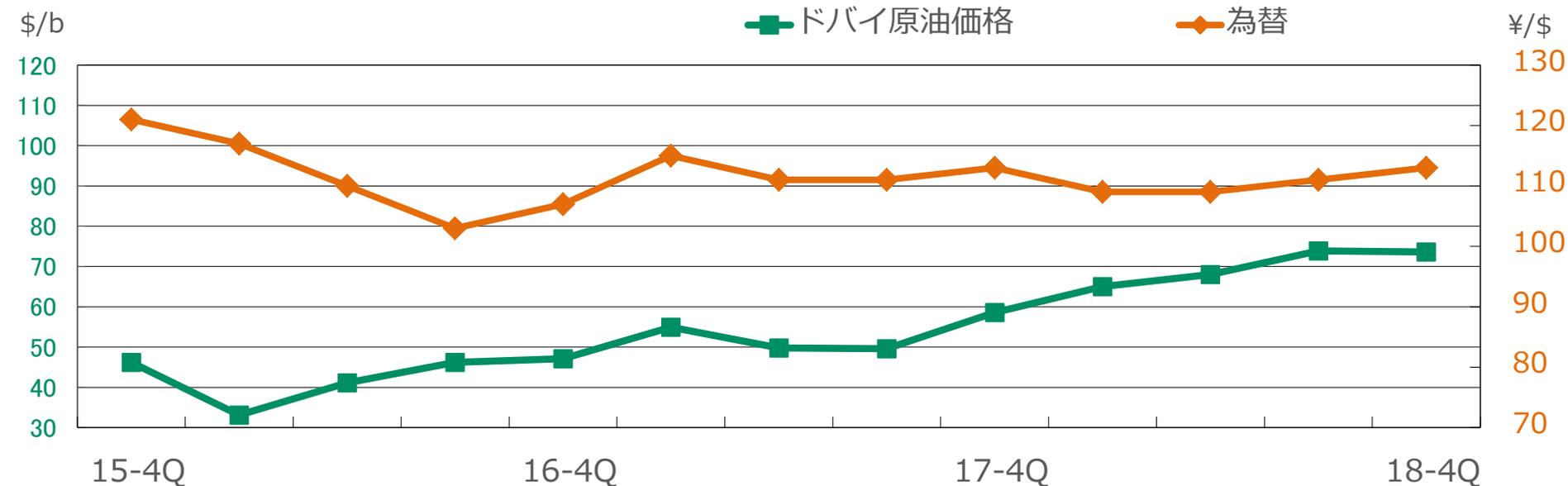


インドネシア



出典：マークラインズ社

当期の経営環境（４）



- 売上高は増加した一方、原材料価格上昇、ハードディスク表面潤滑剤の出荷減少等により利益は減少

科目	18 / 2期	19 / 2期	前期比
売上高	27,922	28,806	+3.2%
売上総利益	9,516	9,319	△2.1%
販管費	7,187	7,369	+2.5%
営業利益	2,330	1,950	△16.3%
営業外損益	270	252	△6.7%
経常利益	2,600	2,202	△15.3%
特別損益	0	76	—
税引前利益	2,600	2,278	△12.4%
当期純利益 (※)	1,623	1,438	△11.4%

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益。以下同様。

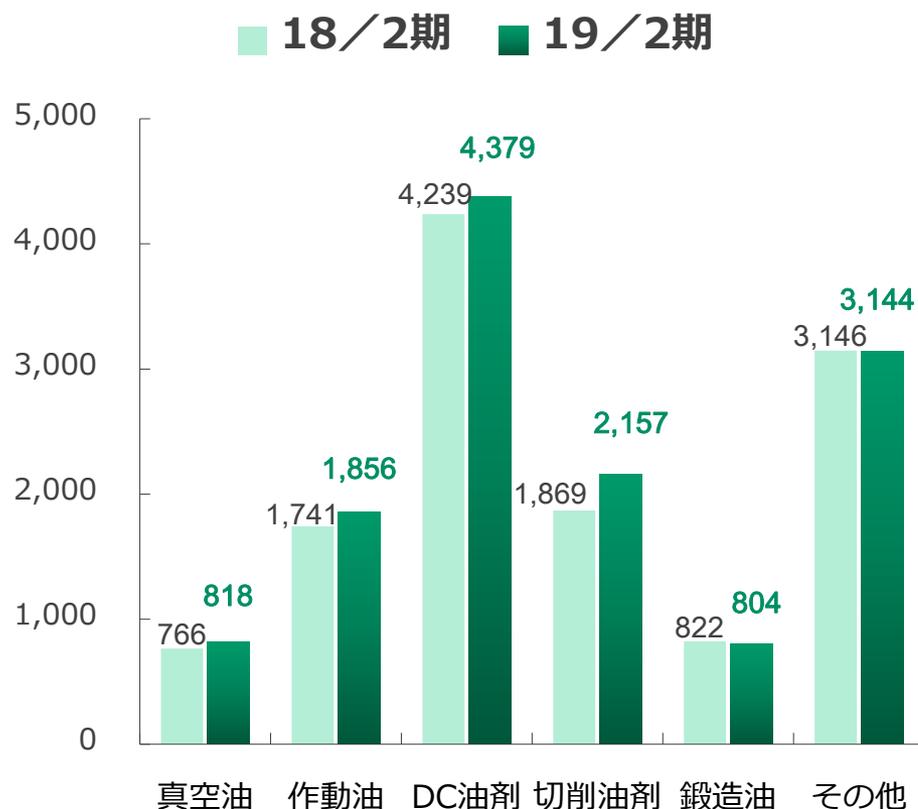
単位：百万円

部門別売上高の内訳

科目	18 / 2期	19 / 2期	前期比
特殊潤滑油部門	12,583	13,158	+4.6%
合成潤滑油部門	2,743	2,602	△5.1%
（うち、HD潤滑剤）	(1,483)	(1,271)	△14.3%
素材部門	3,576	3,874	+8.3%
ホットメルト接着剤部門	7,274	7,318	+0.6%
その他	1,693	1,800	+6.3%
化学品事業計	27,869	28,752	+3.2%
ビル事業	53	53	+0.0%
売上高合計	27,922	28,806	+3.2%

単位：百万円

➤ 部門全体の売上は前年比4.6%増（13,158百万円）
数量は0.5%増



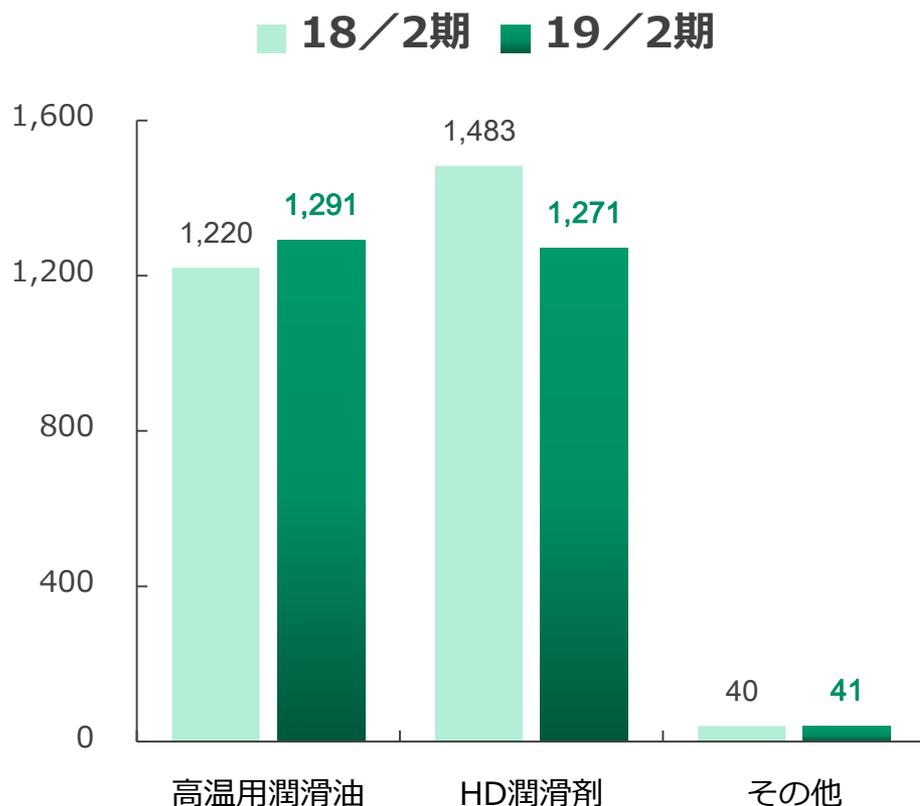
➤ダイカスト用油剤

顧客での堅調な生産状況に加え、水溶性少量塗布型離型剤の拡販により好調。

➤切削油剤

国内外における既存顧客への増販および新規顧客の獲得により好調。

➤ 部門全体の売上は前年比5.1%減（2,602百万円）
数量は4.2%増



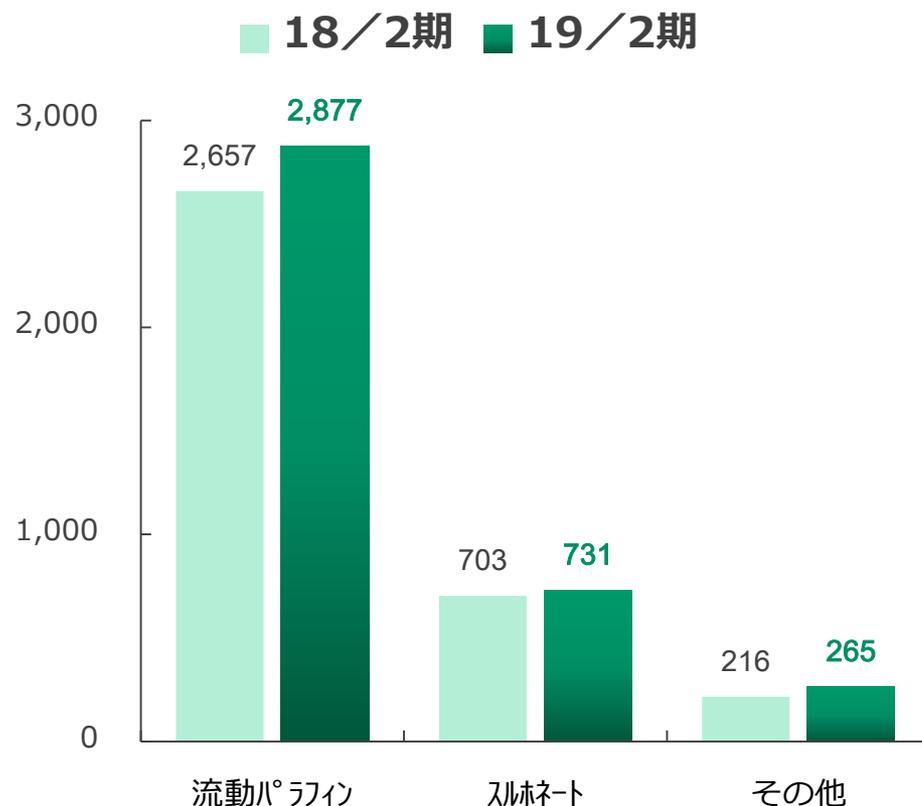
➤ 高温用潤滑油

自動車向けグリース用途
顧客での輸出増により好調。

➤ ハードディスク表面潤滑剤

ハードディスクドライブ市場の
縮小により減少。

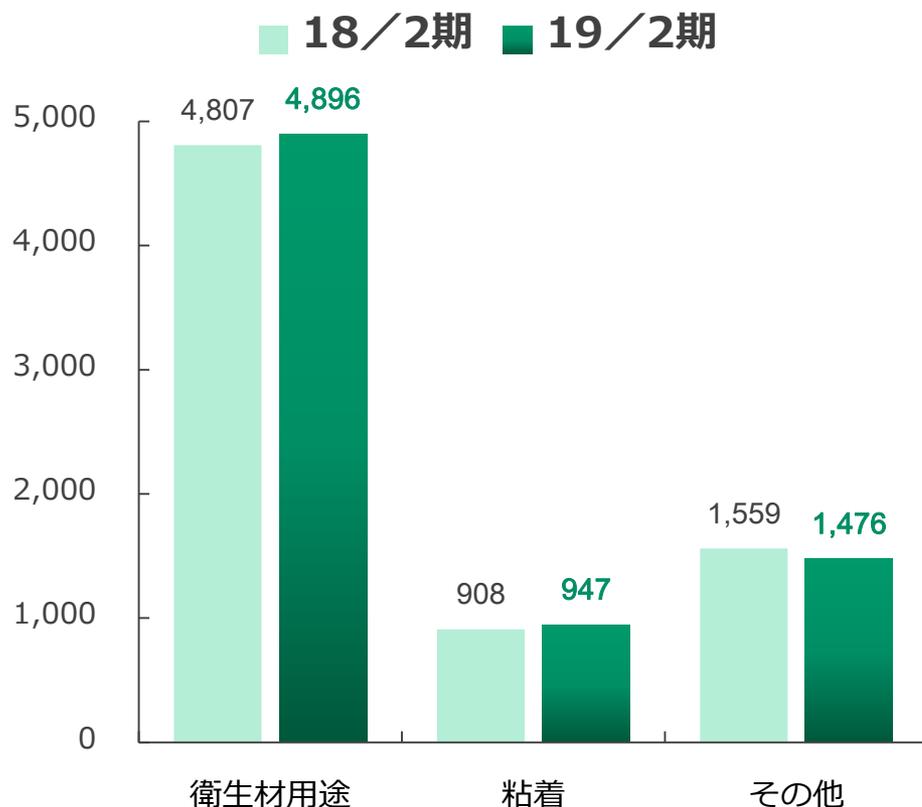
➤ 部門全体の売上は前年比8.3%増（3,874百万円）
数量は0.8%増



➤ 流動パラフィン

数量面では、ポリスチレン可塑剤用途等で減少した一方、医薬、化粧品用途等で増加したことにより、前期比微増。材料価格値上げに伴う製品価格改定により売上は8.3%増加。

➤ 部門全体の売上は前年比0.6%増（7,318百万円）
数量は4.7%増



➤粘着用途

国内および中国においてラベル用途で売上が増加。

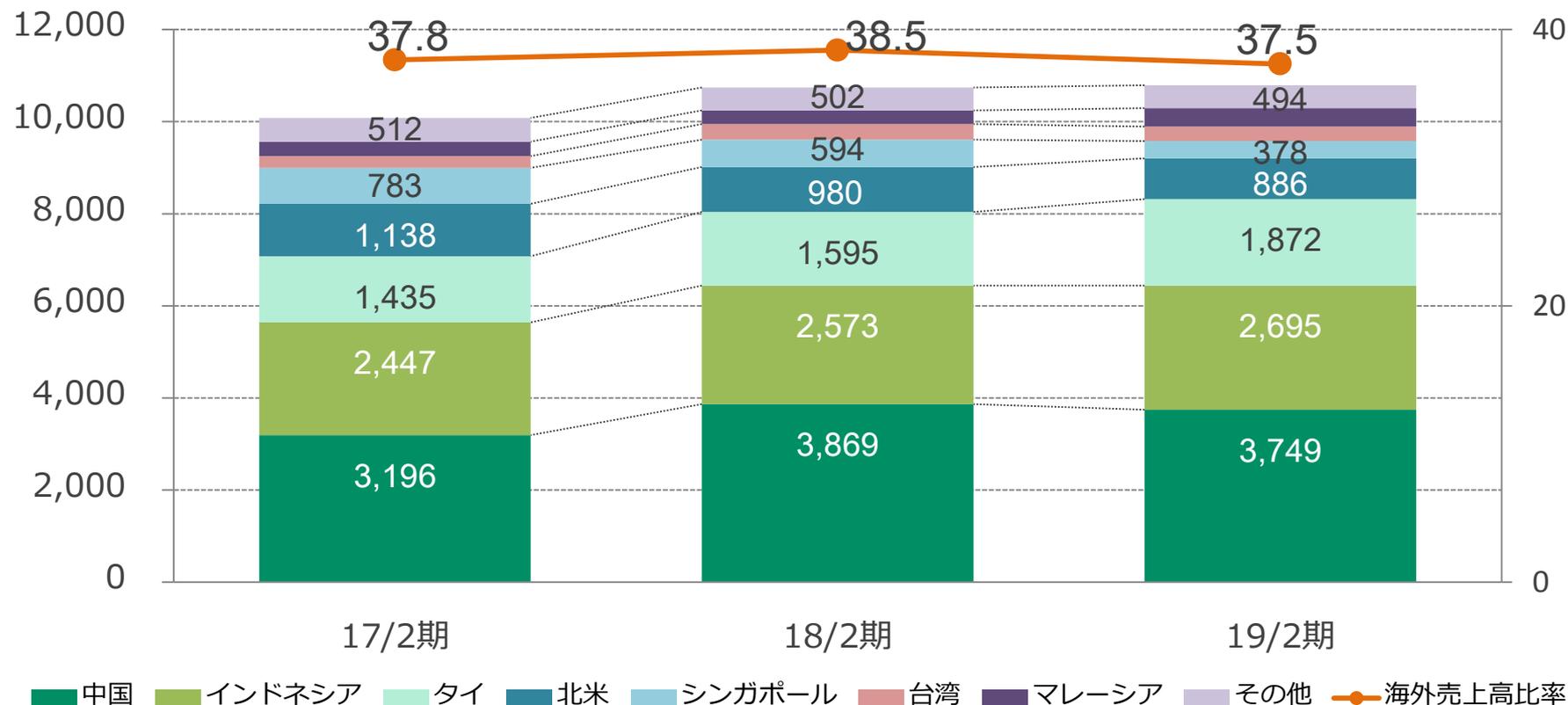
➤衛生材用途

国内顧客での販売減の影響を受け、前期比微増。

➤ 中国では自動車生産台数減少により減収になった一方、東南アジアは好調な自動車生産により関連製品の出荷が好調に推移。ホットメルト接着剤についても既存顧客の増販、新規獲得により好調

単位：百万円

単位：%



科目	18 / 2期	19 / 2期	前期比
売上高	27,922	28,806	+3.2%
売上総利益	9,516	9,319	△2.1%
販管費	7,187	7,369	+2.5%
営業利益	2,330	1,950	△16.3%
営業外損益	270	252	△6.7%
経常利益	2,600	2,202	△15.3%
特別損益	0	76	—
税引前利益	2,600	2,278	△12.4%
当期純利益 (※)	1,623	1,438	△11.4%

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益。以下同様。

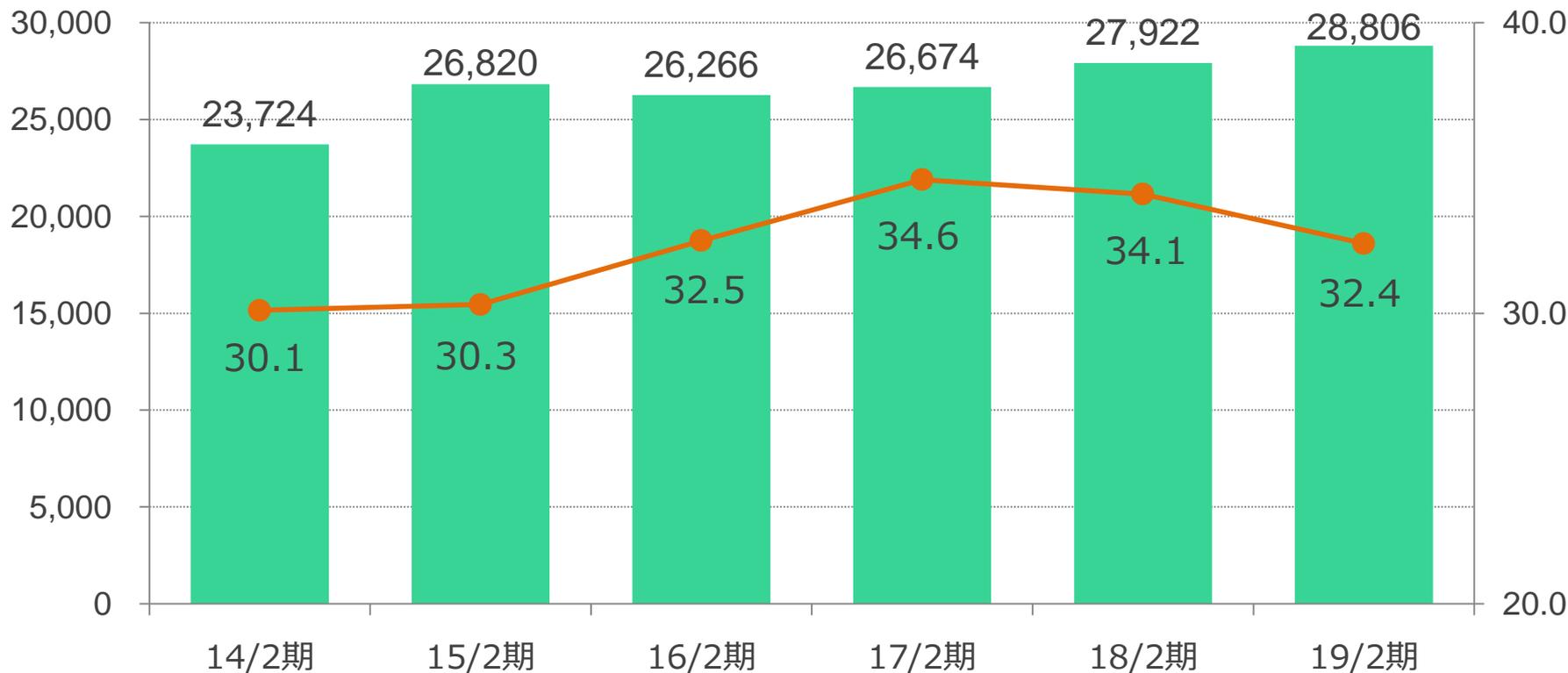
単位：百万円

➤ 売上高は増加した一方、原材料価格の上昇に伴い、売上総利益が減少

単位：百万円

■ 売上高 ● 売上総利益率

単位：%



科目	18 / 2期	19 / 2期	前期比
売上高	27,922	28,806	+3.2%
売上総利益	9,516	9,319	△2.1%
販管費	7,187	7,369	+2.5%
営業利益	2,330	1,950	△16.3%
営業外損益	270	252	△6.7%
経常利益	2,600	2,202	△15.3%
特別損益	0	76	—
税引前利益	2,600	2,278	△12.4%
当期純利益 (※)	1,623	1,438	△11.4%

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益。以下同様。

単位：百万円

単位：百万円

	18 / 2期	19 / 2期	増減	前期比
販売費・一般管理費	7,187	7,369	+182	+2.5%
うち、研究開発費	1,270	1,416	+146	+11.5%
売上高販管費比率	25.7%	25.6%		
売上高研究開発費比率	4.6%	4.9%		

➤ 経費の増加要因

- 研究開発費・人件費等の増加

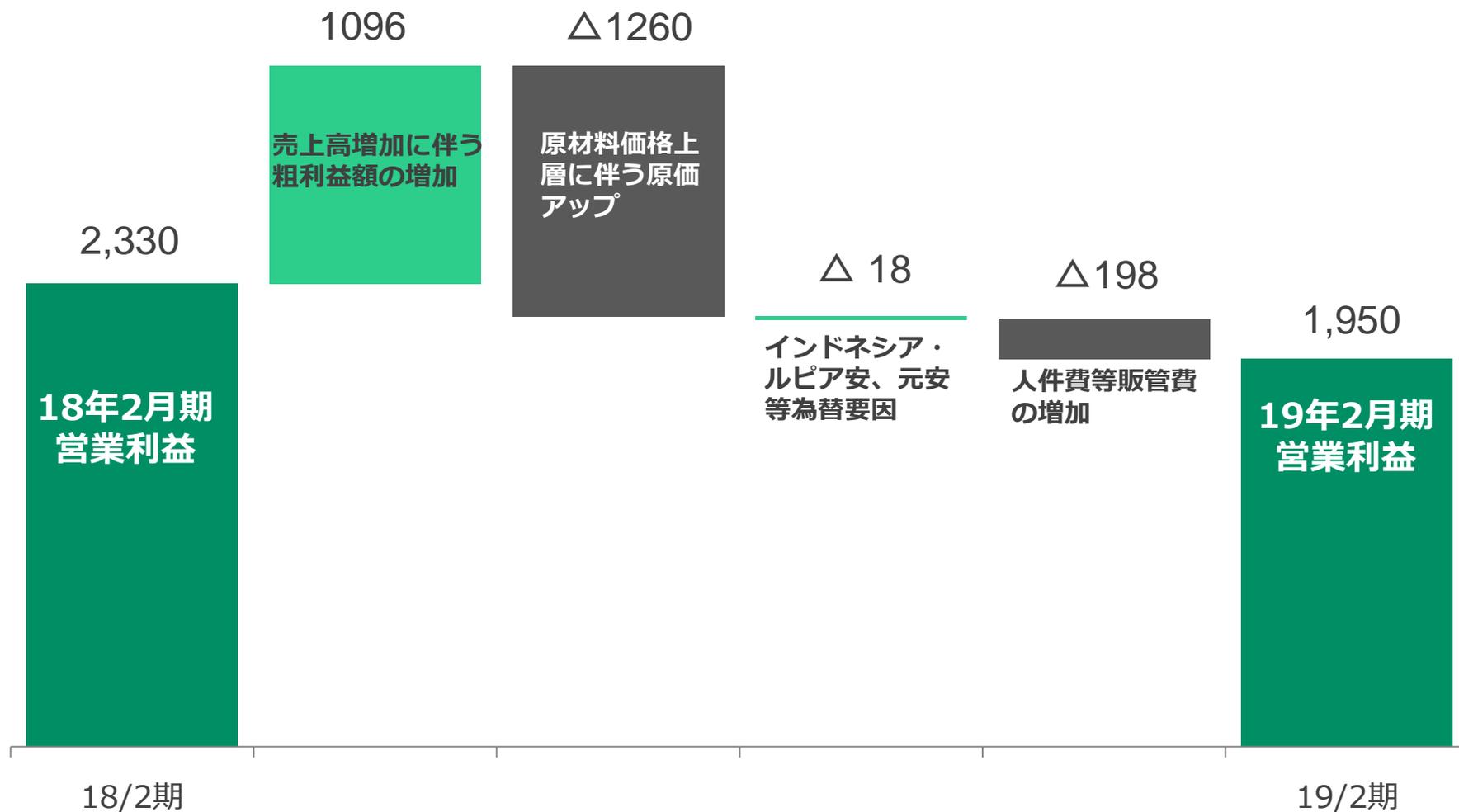
科目	18 / 2期	19 / 2期	前期比
売上高	27,922	28,806	+3.2%
売上総利益	9,516	9,319	△2.1%
販管費	7,187	7,369	+2.5%
営業利益	2,330	1,950	△16.3%
営業外損益	270	252	△6.7%
経常利益	2,600	2,202	△15.3%
特別損益	0	76	—
税引前利益	2,600	2,278	△12.4%
当期純利益 (※)	1,623	1,438	△11.4%

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益。以下同様。

単位：百万円

営業利益変動要因

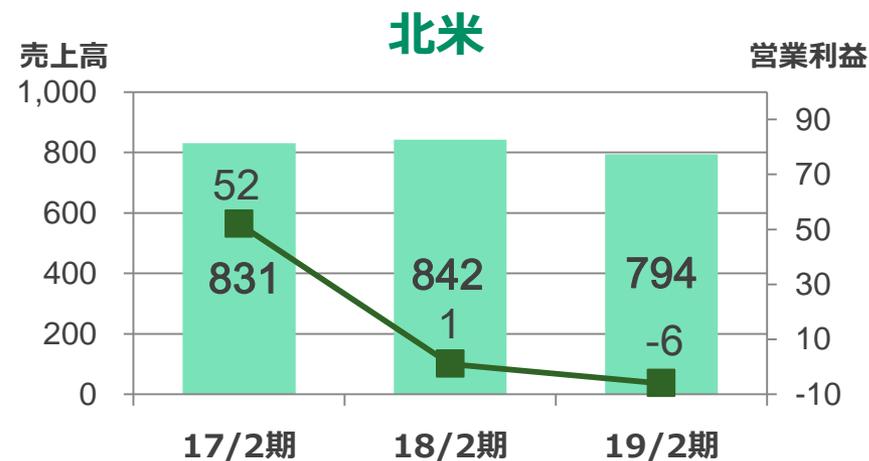
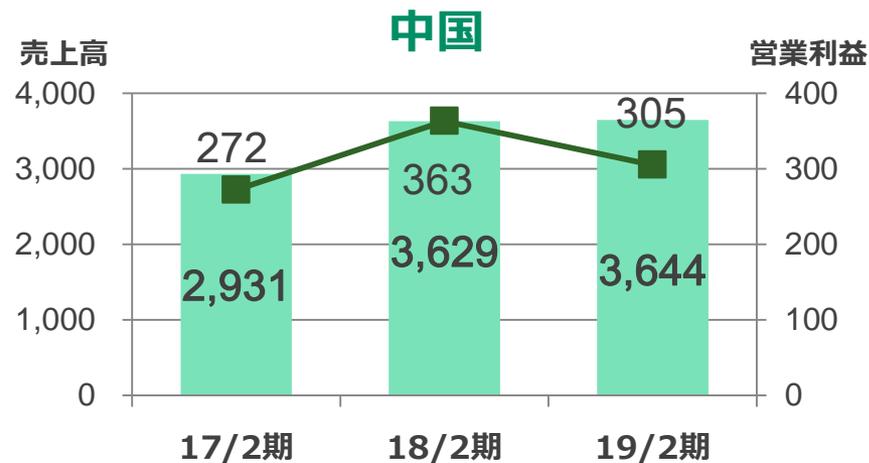
単位：百万円



地域別損益（連結）

■ 売上高 ■ 営業利益

単位：百万円



貸借対照表（連結）

科目	19/2期末	増減	科目	19/2期末	増減
現預金	3,377	△339	仕入債務	4,527	288
売上債権	6,863	△148	有利子負債	2,948	△150
棚卸資産	4,666	486	その他流動負債	2,403	617
その他	500	153	その他固定負債	783	△12
流動資産計	15,405	152	負債合計	10,661	743
有形固定資産	9,231	1,204	資本金・資本剰余金	4,097	41
無形固定資産	1,275	△240	利益剰余金	11,701	953
投資その他	2,525	63	自己株式	△172	△172
固定資産計	13,031	1,027	包括利益累計額	78	△446
			非支配株主持分	2,072	61
			純資産合計	17,775	437
資産合計	28,436	1,179	負債・資本合計	28,436	1,179

注) 増減：18/2期末との比較

単位：百万円

科目	18 / 2期	19 / 2期	増減
設備投資額 合計	1,287	2,329	+1,042
MORESCO	869	1,218	+349
連結子会社	418	1,110	+693
減価償却費	1,171	1,251	+80

➤ 主な設備投資（取得ベース）

- 本社研究開発設備
- 赤穂工場製造設備合理化
- 千葉工場製造設備合理化・新事務所棟建設
- MORESCO HM&LUB INDIA PRIVATE LIMITED工場建設

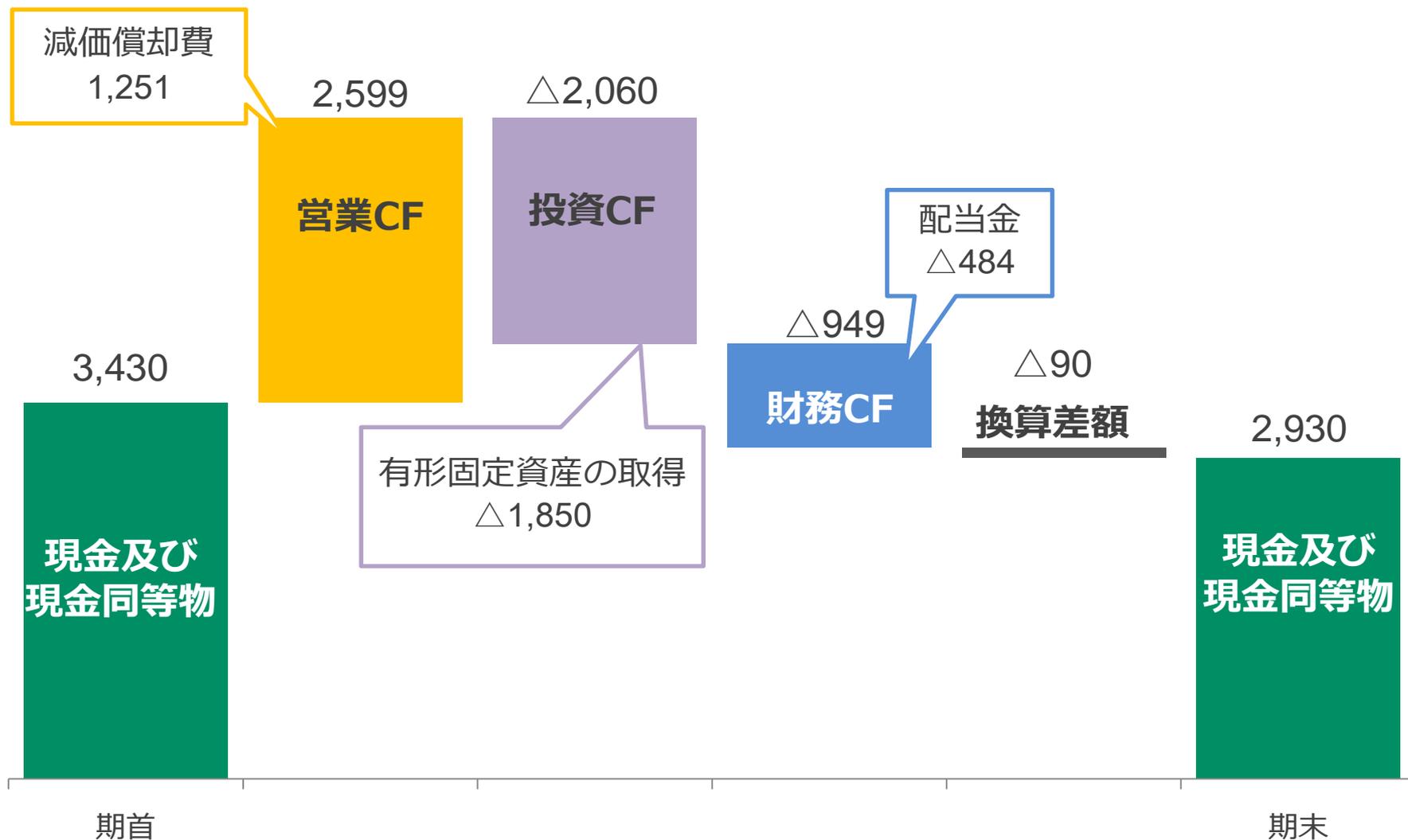
科目	18 / 2期	19 / 2期	増減
短期借入金※	1,769	2,173	+404
長期借入金	1,329	775	△554
借入金合計	3,098	2,948	△150

有利子負債比率	11.4%	10.4%
---------	-------	-------

※ 1年以内返済予定の長期借入金を含む

キャッシュフロー（連結）

単位：百万円



- 国内事業基盤の充実とともに、インド工場稼動をはじめとする海外での製造、販売を拡大。また、新製品開発にも注力

科目	2018年度	2019年度予想
売上高	28,806	31,300
営業利益	1,950	2,150
経常利益	2,202	2,450
当期純利益	1,438	1,550

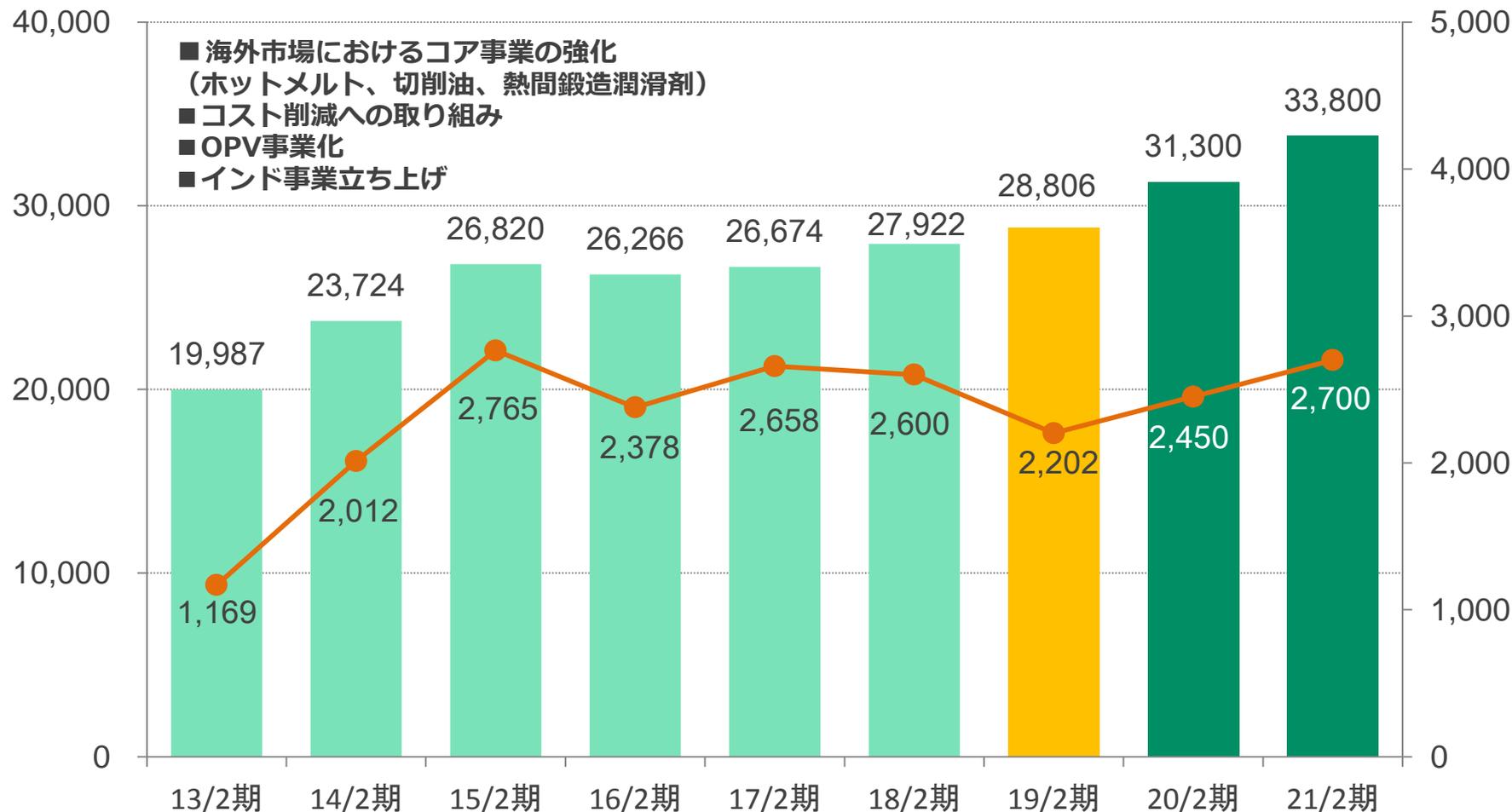
中期経営計画

直近の業績と第8次中期経営計画（修正）

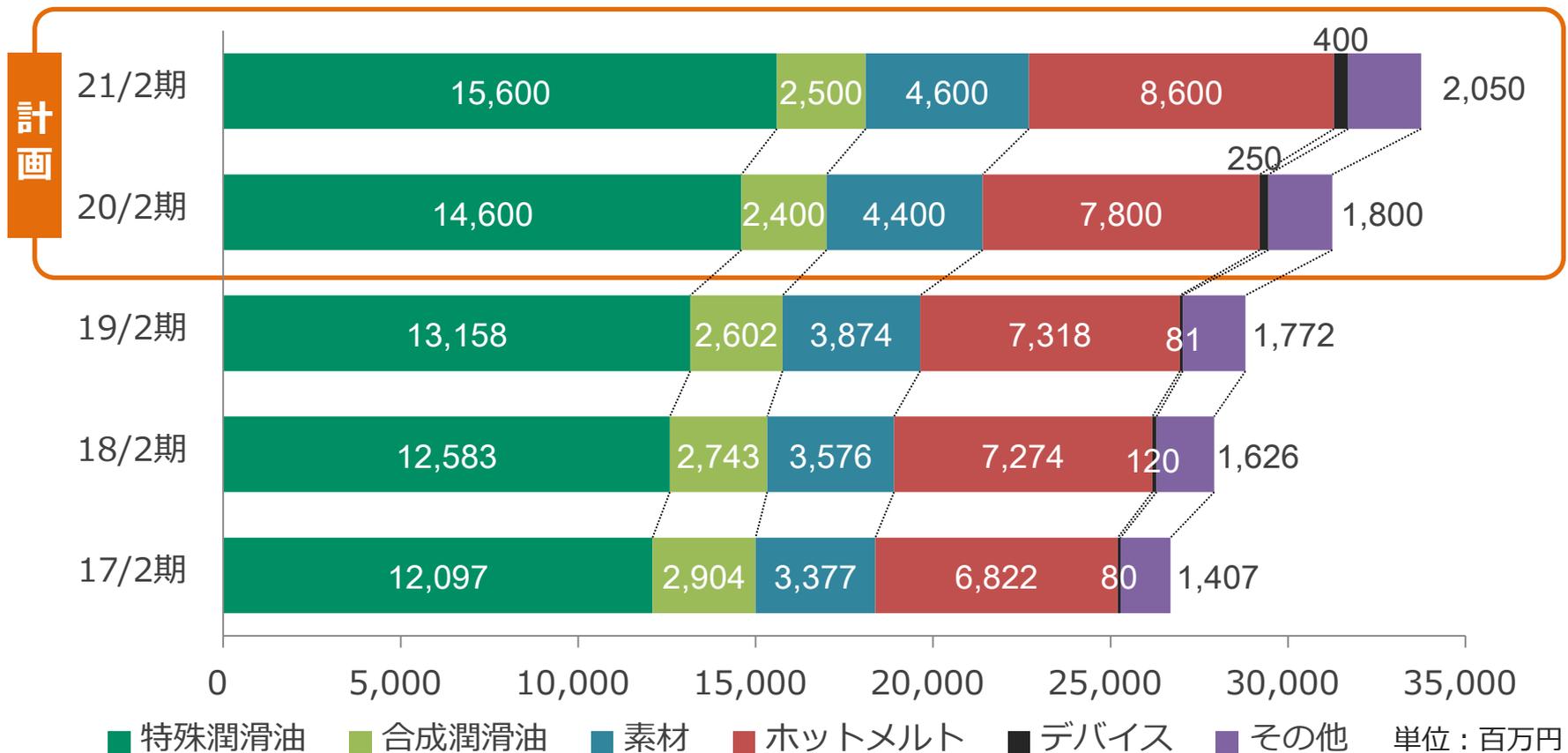
(2018～20年度)
2019/2/19発表



■ 13/2～18/2期売上高 ■ 19/2期売上高 ■ 20/2～21/2期売上高（計画） ● 経常利益 単位：百万円



➤ 水溶性少量塗布型離型剤、低臭気ホットメルト接着剤などの新製品を拡大

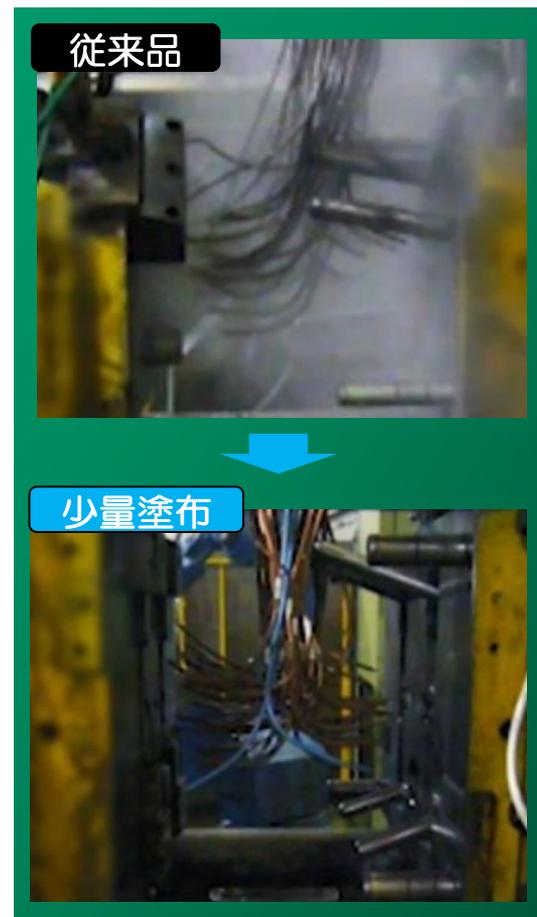


▶ 水溶性少量塗布型離型剤

▶ 希釈タイプと比べて約1/100の塗布量を実現

◆ メリット

- ・ 使用量減少によりお客様のトータルコストを削減
- ・ 廃液がほぼゼロになり、環境負荷を低減
- ・ 飛沫を防ぐことで作業環境を改善
- ・ 金型の超寿命化を実現（約2倍に伸びた例あり）



➤ 低VOC型ホットメルト接着剤

- 有機溶剤を使用しないホットメルト接着剤から、わずかな揮発性有機化合物(VOC)も除去

◆ メリット

- ・ 環境負荷を低減し、中国の環境規制に対応
- ・ 安全性をさらに向上させ、シックハウス症候群等を防ぐ。



➤ 高引火点流動パラフィン

➤ 化学工業・医薬品向けに引火点が260℃の流動パラフィンを開発

◆ メリット

- ・ 安全性が高く、様々な用途での使用が可能に。
- ・ 高温環境下で使用しても油煙が発生しにくく、作業性に優れている。



➤ MORESCO HM&LUB INDIA PRIVATE LIMITED 工場建設状況

インドでの現地生産・販売による特殊潤滑油およびホットメルト接着剤事業の展開のため、2019年6月の稼動に向け、工場建設を進めています。



➤ 千葉工場新事務所棟の完成

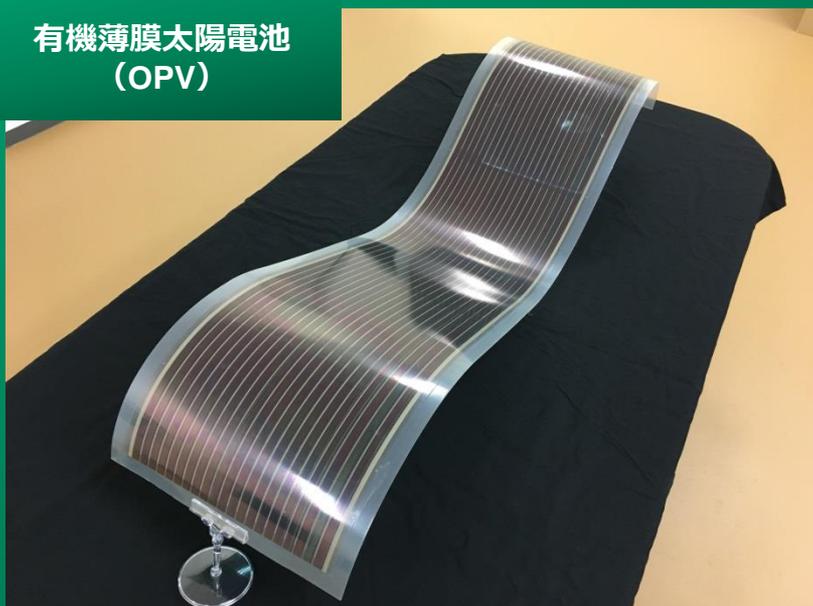
2018年11月16日に千葉工場の新事務所棟が竣工式を迎えました。新たに研究設備を整え、将来へ向けた研究開発を進めます。



▶平成30年度神戸市環境奨励賞を受賞

神戸市から、環境に配慮した製品（ホットメルト接着剤、有機薄膜太陽電池（OPV）、ダイカスト用離型剤）の推奨・普及に努めている点、本社・研究センター周辺の清掃活動が評価されました。

有機薄膜太陽電池
(OPV)



本社・研究センター
周辺の清掃活動

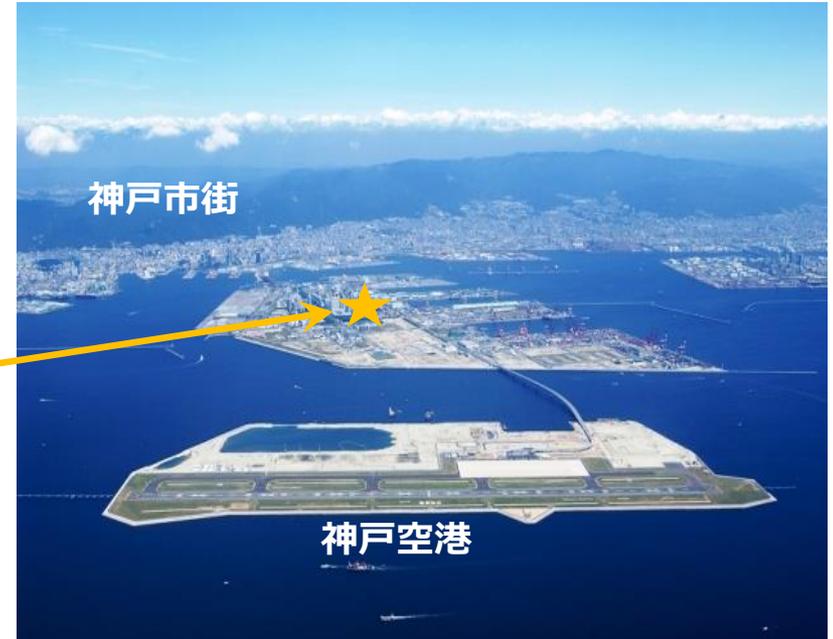
➤ MORESCO流「働き方改革」

業務革新による労働生産性の向上、多用な働き方の推進、定年再雇用制度の充実を図り、従業員が更に活躍できるMORESCOを目指します。

取り組み内容

- ・ 有給休暇取得の奨励
- ・ 8月の会議を原則ゼロにする「ハッピーオーガスト」
- ・ 女性管理職の積極的登用
- ・ 育児休業など各種制度の充実
- ・ フレックスタイムの充実





この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点における当社の判断に基づくものであり、今後、予告なしに変更することがあります。本資料記載の業績見通しや目標数値のみに全面的に依存して、投資判断を下すことによるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。なお、当資料を無断で複写複製、配布することを禁じます。

株式会社 **MORESCO**

2019/4/24

<http://www.moresco.co.jp/>
IR窓口 078-303-9058 (広報室)